

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

《セグメント別業績》

(単位：百万円)

	売 上 高				セグメント利益（営業利益）			
	当第3四半期	前第3四半期	増減額	前年同期比(%)	当第3四半期	前第3四半期	増減額	前年同期比(%)
紳士服販売事業	121,547	120,009	1,538	101.3	9,473	10,423	△949	90.9
カード事業	2,690	2,425	264	110.9	560	310	249	180.5
商業印刷事業	8,451	8,008	443	105.5	470	227	242	206.2
雑貨販売事業	11,914	12,197	△282	97.7	363	404	△41	89.7
その他	9,332	7,213	2,118	129.4	△276	△89	△187	—
調整額	△3,033	△2,715	△318	—	74	78	△3	—
合計	150,903	147,139	3,763	102.6	10,664	11,355	△690	93.9

(注) セグメント別売上高、セグメント利益（営業利益）はセグメント間取引相殺消去前の数値であります。

当第3四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年12月31日まで）におけるわが国経済は、政府の経済・金融政策などを背景に、円安がすすみ、株価も上昇するなど、企業業績や個人消費にも持ち直しの動きが見られました。しかしながら、世界景気の下振れ懸念などから、依然として先行き不透明な状況で推移いたしました。

このような状況下、当社グループにおける売上高は前年同期比102.6%の1,509億3百万円、営業利益は前年同期比93.9%の106億64百万円となりました。

経常利益につきましては、営業外収益として「包括的長期為替予約契約（クーポンスワップ契約）」等に係るデリバティブ評価益9億93百万円（前年同期はデリバティブ評価益22億1百万円）、為替差益3億38百万円（前年同期は為替差損10億68百万円）を計上したことなどから、前年同期比95.4%の126億42百万円となりました。

特別損益につきましては、特別損失として固定資産除売却損3億9百万円、減損損失1億79百万円を計上いたしました。

以上の結果、四半期純利益は前年同期比96.1%の71億2百万円となりました。

セグメント別の営業の状況は、以下のとおりであります。

なお、以下のセグメント別売上高、セグメント利益（損失）は、セグメント間の内部取引相殺前の数値であります。

<紳士服販売事業>

〔青山商事(株)スーツ事業、ブルーリバーズ(株)、(株)エム・ディー・エス、(株)栄商、服良(株)〕

当事業の売上高は前年同期比101.3%の1,215億47百万円、セグメント利益（営業利益）は前年同期比90.9%の94億73百万円となりました。

当事業の中核部門であります青山商事(株)のスーツ事業につきましては、引き続き一都三県を中心とした着実な出店、移転等を実施するなどマーケットシェア拡大を図るとともに、平成25年10月より、当社創業50周年の記念施策を「洋服の青山」全店にて開始いたしました。

具体的には、50周年記念セールを実施するとともに、「ヒルトンハンドメイドスーツ」などの50周年記念商品やレディースのキャリア向け新ブランド「ANCHOR WOMAN（アンカーウーマン）」の展開などを実施いたしました。

その結果、スーツ事業の既存店売上高は10月～12月で前年同期比101.0%となり、4月～12月で前年同期比99.0%となりました。

なお、4月から12月までの9ヶ月間のメンズスーツの販売着数は前年同期比96.8%の1,597千着となり、スーツの平均販売単価は前年同期比102.9%の25,037円となりました。

当第3四半期まで（4月～12月）のスーツ事業の業態別出退店等の状況につきましては、以下のとおりであります。

<スーツ事業の業態別、出退店等の状況及び期末店舗数（平成25年12月末現在）> (単位：店)

業態名	洋服の青山	ザ・スーツカンパニー	ユニバーサルランゲージ	ブルーエグリージオ	合計
出店〔内 移転・建替〕 （4月～12月）	26〔6〕	1	3	1	31〔6〕
閉店（4月～12月）	0	0	0	0	0
期末店舗数（12月末）	766	40	8	4	818

(注)「ザ・スーツカンパニー」には「TSC SPA OUTLET」（2店舗）を、「ユニバーサルランゲージ」には「ユニバーサルランゲージ アウトレット」（1店舗）を含めております。

<カード事業>〔(株)青山キャピタル〕

当事業につきましては、改正貸金業法等の影響などある中、売上高は前年同期比110.9%の26億90百万円、セグメント利益は前年同期比180.5%の5億60百万円となりました。

なお、平成25年11月末現在の「AOYAMAカード」の有効会員数は369万人となりました。

<商業印刷事業>〔(株)アスコ〕

当事業につきましては、既存取引先の受注増などにより、売上高は前年同期比105.5%の84億51百万円、セグメント利益は前年同期比206.2%の4億70百万円となりました。

<雑貨販売事業>〔(株)青五〕

当事業につきましては、他業種を含めた他社との競争激化などから、売上高は前年同期比97.7%の119億14百万円、セグメント利益は前年同期比89.7%の3億63百万円となりました。

店舗につきましては、当第3四半期まで（3月～11月）に3店舗を出店し、非効率な5店舗を閉店いたしましたので、平成25年11月末の店舗数は129店舗となりました。

<その他>〔青山商事(株)カジュアル・リユース事業、(株)イーグルリテイリング、(株)glob〕

その他の事業につきましては、青山商事(株)カジュアル・リユース事業の当第3四半期まで（4月～12月）の既存店売上高が前年同期比96.3%となる一方、(株)イーグルリテイリングが、「アメリカンイーグルアウトフィッターズ」を2店舗出店したことなどから、売上高は前年同期比129.4%の93億32百万円、セグメント損失2億76百万円（前年同期はセグメント損失89百万円）となりました。

当第3四半期まで（4月～12月）のその他に含まれる業態別出退店等の状況につきましては、以下のとおりであります。

<その他に含まれる業態別、出退店等の状況及び期末店舗数（平成25年12月末現在）> (単位：店)

業態名	青山商事(株) カジュアル・リユース事業				(株)イーグルリテイリング	(株)glob
	キャラジャ	リーバイスストア	セカンドストリート	ジャンブルストア	アメリカンイーグルアウトフィッターズ	焼肉きんぐ
出店（4月～12月）	1	1	1	0	2	2
閉店（4月～12月）	0	0	0	0	0	0
期末店舗数（12月末）	26	6	4	2	7	11

(注)「アメリカンイーグルアウトフィッターズ」にはアウトレット店（1店舗）を含めております。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における資産について、流動資産は1,800億75百万円（前連結会計年度末比53億62百万円減）となりました。主な要因は、有価証券が138億82百万円、受取手形及び売掛金が34億24百万円それぞれ減少しましたが、現金及び預金が16億76百万円、たな卸資産（商品及び製品、原材料及び貯蔵品、仕掛品）が62億62百万円、営業貸付金が30億85百万円それぞれ増加したことによるものであります。

固定資産は、1,619億34百万円（前連結会計年度末比30億12百万円増）となりました。主な要因は、建物及び構築物が29億46百万円、土地が17億53百万円それぞれ増加しましたが、投資有価証券が8億57百万円、投資不動産が10億53百万円それぞれ減少したことによるものであります。

この結果、資産合計は3,421億56百万円（前連結会計年度末比22億16百万円減）となりました。

負債について、流動負債は745億11百万円（前連結会計年度末比94億58百万円減）となりました。主な要因は、短期借入金が62億円、未払法人税等が48億96百万円、賞与引当金が9億70百万円それぞれ減少しましたが、1年内償還予定の社債が40億円増加したことによるものであります。

固定負債は、259億34百万円（前連結会計年度末比55億57百万円増）となりました。主な要因は、社債が20億円、長期借入金が30億円それぞれ増加したことによるものであります。

この結果、負債合計は1,004億45百万円（前連結会計年度末比39億円減）となりました。

純資産合計は、2,417億11百万円（前連結会計年度末比16億83百万円増）となりました。主な要因は、利益剰余金が129億59百万円減少しましたが、自己株式による減少額が141億94百万円減少したことによるものであります。

(3) 研究開発活動

該当事項はありません。